

# Italian 12Ft. Dinghy Championship was published in KAJI magazine (Japanese KAJI is meaning Rudder)

## RACE INFORMATION

### 世界中のセーラーを魅了する A級ディンギー=12FT.ディンギーの祭典

第87回イタリア 12FT.ディンギー チャンピオンシップ  
2022.8.31~9.3 イタリア ラベンナヨットハーバー

文=小森洋一(三田A級ディンギー倶楽部世話役) 写真=イタリアディンギー協会



A級ディンギーは、世界では12FT(フィート)ディンギーと呼ばれる

ラベンナはミラノから列車で2時間、車で20分のアドリア海に面した保養地ですが街は人影もまばらでひっそりしておりました。ラベンナ市街地とアドリア海との間は8kmの運河でつながっていて、その運河に10階建てのビルの高さほどもある大型船が行き来し、その横を小さなディンギーがハーバーを出入りする光景には驚かされました。

この地で開催された「12FT.ディンギー(=A級ディンギー)チャンピオンシップ」。さて、4年ぶりの海外参戦となりましたが……、不覚にも空路イタリアにたどり着くまでに体力、気力を消耗してしまいました。ロシアの上を飛べない飛行時間の長さは想像を超えるものでした。

また今まで見たことのない大きなハーバーから、レース海面まで行くのに1時間もかかることにも閉口いたしました。

総勢68艇のディンギーがイタリア全国より集結しました。今まではイタリアンカップということで外国艇の参加は認められておりませんでしたが、今回はどうにか、日本とブラジル艇が外国艇として参加いたしました。

3日間のレース予定でしたが、初日は雷雨のためノーレース。2日目は微風。3日目は順風強で計6レースが行われました。68艇のスタートは壮観でなかなかの見ものでしたが、スタート時にはやはり風下風上での接触は避けられませんでした。また微風時にライフジャケット無し、裸でセーリングする姿



果敢に勝負に挑む、菅沼哲郎/小森洋一チーム(右)。次回はシングルで挑戦したい



イタリア北部、長良のひさのうら辺りに位置する、ラベンナヨットハーバー



左から岩田幸久(応援団)、筆者、菅沼、全谷正起(応援団)



日本チームのサポートに尽力してくれたFrancescaさん



レース開始前、ラベンナ・ヨットハーバーで集合写真を撮影した参加者たち

にも驚かされました。

レース前の集合写真を撮影しました。50~60歳代の参加者が多く見受けられました。なかには80代の方もおられたとか。女性も2人参加。イタリアでは早い人で5~6歳、遅くても12~13歳頃から各種セーリングに慣れ親しみ、だいたい40代後半には12FT.ディンギーに落ち着いて人生を楽しんでおられるようでした。日本もこうありがたいですね。

参加費は120ユーロ(約16,000円)、艇は無償で借りました。初日レセプションは軽食ドリンク付き。2日目も夕刻よりレストランを借り切ってパーティーを行ったようです。

我々はコロナ感染防止上、不参加となりましたが……。120ユーロの参加費で、運営艇・救助艇、スタッフ、カメラマンと2回のパーティー開催ができるとは。次回、運営経費の内容を聞いてみようと思いました。

来年はオランダでのレース参戦を計画中。今後は、今まで集った海外セーラーとの人脉を若い人たちにつなげていきたいと思っています。

#### 上位成績(参加68艇)

- 1位 Giovanni Boem
- 2位 Vittorio D Albertas
- 3位 Filippo Maria Jannello



なんと裸でセーリングする参加者!



イタリア料理がずらりと並ぶレセプションパーティー



68艇のスタートは狂巻。初日は雷雨で中止、2~3日目でレースを行った



協会理事長のFrancescaさん(左)にクラブフラッグをいただく筆者。お礼のスピーチをさせていただいた

